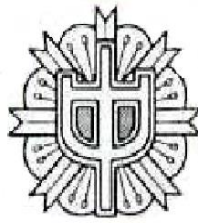


光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校

校長 豊田 貴志

令和7年度 第5号

令和7年9月2日



「夏の努力を実りへ」

校長 豊田 貴志

長かった夏休みも終わり、9月1日から二期が始まりました。振り返ってみると今年の夏は記録づくめの暑さでした。東京都心では8月に猛暑日（最高気温が35℃以上の日）が10日連続となり、年間の猛暑日も23日に達し（8/27時点）、過去最多です。



「暑さ寒さも彼岸まで^{ひが}」と言います。これは極端に暑い日も寒い日もお彼岸を境目に過ごしやすい日となる季節の変わり目を表すことわざです。今年の秋のお彼岸は9/20～26ですが、去年の最後の真夏日は10月19日でした。早く過ごしやすい日が訪れて欲しいと心から願うばかりです。

夏 日：最高気温が25℃以上の日
真夏日：最高気温が30℃以上の日
猛暑日：最高気温が35℃以上の日

さて、夏休みの始まりに、「梅雨明け十日^と」の話をしました。梅雨が明けてからの十日間は、空が安定して晴れ渡る時期です。夏の訪れを告げる「梅雨明け十日」は農業にとっても、スポーツにとっても、とても大事なタイミングであり、植物が育つのも同じよう私たち人間も変わるきっかけになる時期でもある…と伝えました。

皆さんはこの夏どのように過ごし、長い休みの中でどんな挑戦をしたでしょうか。部活動に励んだ人、学習に力を入れた人、家族や友達との時間を大切にしたり、それぞれに充実したものであったと思います。思った通りにできた人もいれば、計画通りにいかなかった人もいるかもしれません。しかし大事なことは「夏に何を蒔いたか^ま」です。

学習に向かった努力の種、本を読む習慣の種、部活動で流した汗の種、家族を助けた思いやりの種。蒔いた時には小さかった種も、二期の毎日の生活の中で、少しずつ芽を出し、着実に育っていきます。二期は一年で最も長い学期だからこそ、「夏の努力、すなわち種蒔き」が「成果という実り」となるのもこの学期なのです。そう考えてみると二期の生活をどう送るかも大切なことが分かります。一方で、「夏休みにやろうと思ってできなかった」ことがあったとしても、あきらめる必要はありません。挑戦するのに遅すぎることはないのです。二期のスタートに合わせて、今からでも始めればよいのです。



そして二期の大きな行事のひとつに「合唱コンクール」があります。クラス全員で一つの曲をつくり上げるには、仲間と声を合わせ、心を合わせる必要があります。夏に積み重ねた努力や思いやりの種は、きっとこの合唱コンクールでも大きく実りを迎えるはずです。この二期、みなさんが夏の努力を实らせ、合唱コンクールや学校生活を通じてさらに成長していくことを期待しています。充実した学期にしていきたいと思います。